

平成26年3月16日（日）に、第5次枚方市総合計画の策定に向けて、「第5回枚方市まちづくりワークショップ」を開催しました。

第5回は市民等19名の参加で、4つの班に分かれて「健康で心豊かに暮らすために」をテーマに話し合い、様々な意見・提案が出されました。

【当日の流れ】

- ◇前回のワークショップだよりの確認
- ◇ワークショップの進め方の説明
- ◇ワークショップ（班別）
 - テーマ「健康で心豊かに暮らすために」
 - ・班ごとに意見を出し合う
 - ・各班の発表を行い、全体で共有する
- ◇今後の進め方の確認



※左からA班、B班、C班、D班のワークショップのようす

各班から出された主な意見【 テーマ「健康で心豊かに暮らすために」 】

○「医療体制が充実したまち」に

年をとっても病気になっても不安がないよう、医療体制を充実すべきとの意見が多く出されました。在宅医療によるターミナルケアの充実や、大学病院とかかりつけ医などの病院間の連携、いつでも診療が受けられる体制の充実などが必要との意見が出されました。

○「市民の健康づくりの推進」を

全班に共通して、健康づくりを積極的に推進すべきとの意見がありました。健診の受診者を増やすこと、スポーツなどで気軽に体を動かせる公園や淀川堤防の環境を整備すること、家庭教育を充実し病院や薬を利用しないようにすることなどが必要との意見が出されました。また、健康施策への効果的な投資は医療費削減につながり、それにより生み出された財源を更に活用していく好循環をつくるべきとの意見も出されました。

○「自立を支援し、人権意識の高いまち」に

個々人がその特性や能力に応じ、自立して暮らすためには、障害や人種など個々の特性を尊重し合うことが大切で、そのためには、子どもの頃から障害者や高齢者、様々な人種の人との交流を深める場づくりが必要との意見がありました。また、人権意識を高める研修等や、子どもの「人間力」を育てる教育が必要との意見も出されました。

○「高齢者が生きがいを感じられるまち」に

高齢者が生きがいを持って暮らしていくためには、高齢者の技能・経験を十分に生かせるよう、収入を得ることのできる就労の場や、ボランティアなどの活躍の場を提供すべきとの意見が出されました。また、高齢者と若者・子どもとの世代間交流についても、いきいきと暮らすためには大切との意見がありました。

次のページより、各班（A～D班）で出された意見・提案内容の詳細です。

A 班

テーマ『健康で心豊かに暮らすために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
健康・医療 *安心して年がとれるまち、年をとっても不安のないまちになるとよい 病気にかかっても不安のないまち 健診の受診者を増やすこと 健康づくりが支援できればよい	*老後の生活やお金について不安 *病気になるまで不安と感しない *街かどデイハウスで、運動するような内容が用意されていない *寒いまちを歩いている	○“健康第一”として予算配分を考える *できるだけ医療費の負担を少なく ○医療機関の増加 ○治療中の手当の充実 *治療中などに働けない場合の手当なども充実してほしい *回復後に仕事に復帰しやすい環境づくり ○気軽に運動ができるようになればよい *街かどデイハウスで健康運動など軽運動ができればいい
自立 生涯、社会的自立ができるまち 権利には義務が付いていることを市民が認識 人間中心主義？自立という概念が本当に個を基準とした「自立」となる となりの人の傷や苦しみを素直に手助けできるような「公助・共助・互助」のまち	*市民が役割を認識し、言うだけでなく実行しなければならない *年金だけでは生活できない。収入での自立もある *シルバー人材センターの業務が減っているなど働く場所が少なくなっている *70～80歳くらいまで生きていく力が必要 *色々な人が話せる場づくり *若い人(特に20～40代)の交流がない *1日車いすになるとほとんど会話をしなくなってしまう *さまざまな人が交流できる井戸端会議がない	○各ライフステージに応じた雇用創出 *各世代で収入を得ること、それが自立につながる *障害者の雇用について行政に引っ張ってほしい *高齢者の技能・経験を生かす ○一人一人の子どもを見つめ育てていく教育 *小さいときからの教育が大切 ○個々の能力の評価より「人間力」を育てる教育 *各々の特性、能力、障害の有無等を考えた「自立」が必要 ○障害をもった人との交流 *施設などで話し相手になる人が大切「交流」 *新たな出会いの場が必要 *ひとまちつくるプロジェクト(若い人20～40代と60代以上の交流) ○公助・共助・互助のできる仕組みづくり *交流により楽しく生きていける仕掛けづくり

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「健康・医療(病気にかかっても不安のないまちなど)」「自立(生涯社会的自立ができる、人の傷や苦しみを手助けできる「公助・共助・互助」のまちなど)」があげられた。
- 健康・医療に関しては、病気にかかっても年をとっても不安のないまちに向けて、健診の受診者を増やすことや、健康第一の予算配分、医療機関の増加、治療中の手当の充実、街かどデイハウスに気軽な軽運動を組み込むことなどが必要との意見があった。
- 自立に関しては、生涯、収入を得ることも大切で、ライフステージに応じた雇用創出を図るため、高齢者の技能・経験を生かすことや、障害者の雇用については行政が引っ張ってほしいとの意見があった。また、自立の概念は個々の特性・能力を基準にしたものであるべきで、人の傷や苦しみを素直に手助けできる公助・共助・互助のまちを目指し、特に、障害者や高齢者の話し相手や新たな出会いの場が必要との意見が出された。
- 自立ある社会に向けては、一人一人の子どもを見つめ育てていく教育、また、個々の能力評価よりも「人間力」を育てていく教育が重要との意見が出された。最後に、健康になることが自立にもつながるという意見でまとまった。

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 医療体制が充実したまち </div> <ul style="list-style-type: none"> *専門の医療機関がほしい *必要な医療が枚方で受けられる *医療難民、介護難民をなくしたい 	<ul style="list-style-type: none"> *自分で医療機関を調べないといけない *枚方には関西外大があり、いろいろな国の方が住んでいる(医療機関での外国語の活用) *高度医療機関の対応が冷たく、町医者との連携がない 	<ul style="list-style-type: none"> ○24 時間在宅医療、ターミナルケアの充実 <ul style="list-style-type: none"> *特に自宅で終末期を過ごせるように *関西医大などの病院のすみわけ、機能分担、仕掛けが必要 *医師がチームを組み、町内をまわる *信頼できるかかりつけ医と大学病院との連携 ○専門医の常勤（相談窓口） <ul style="list-style-type: none"> *市民病院の先生のプロパー化 ○在宅介護の支援 ○地域における支援体制・ルールづくり
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 健康 </div> <ul style="list-style-type: none"> *健康寿命を伸ばすための市民の健康づくりを積極的に推進 *健康に集える場。関西医大などがあるので、大学と病院と市民の連携 		<ul style="list-style-type: none"> ○ロコモティブシンドロームの予防対策を積極的に推進 <ul style="list-style-type: none"> *関節や骨、筋肉など運動器に障害が起き、「要介護」「寝たきり」となる「ロコモティブシンドローム」対策、横浜市が先進的に取り組んでいる ○楽しくスポーツができる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> *いつでもどこでも誰でも楽しくスポーツができるように
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 人権・福祉 </div> <ul style="list-style-type: none"> *みんなの自立意識が高いまち *人権、障害などの差別がなく、みんなが一緒に暮らせるように *人権・福祉、自立のサポート機関を 	<ul style="list-style-type: none"> *制度はあるものの、聞かないと教えてくれない、おもてなしの精神がない 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どものころから交流の場をつくる <ul style="list-style-type: none"> *いろいろな人種、障害のある人などと交流できる場 *子どもと高齢者の交流（敬老の日など） ○福祉のまち枚方の復活 <ul style="list-style-type: none"> *どこでも相談できる
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 生きがい </div> <ul style="list-style-type: none"> *高齢者の生きがいづくりを積極的にサポートするまち 		<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習市民センターの活用と内容の拡充 ○「生きがい就労」の場を提供する仕組み <ul style="list-style-type: none"> *元気な人はボランティア（高齢者） *場の提供：人の足りない分野では高齢者の出番
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> サポートケアの充実 </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 共通項目 </div>	<ul style="list-style-type: none"> *ここに行けば分かるという入口がない。知りたいことを見つけるまでが大変 *情報を知るポータルサイトがない 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動の充実 ○ポータルサイトの設立 <ul style="list-style-type: none"> *市民、行政、大学の情報が誰でも見ることができるツールをつくる

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「医療体制が充実したまち」のほか、サポートケアの充実として「健康」「人権・福祉」「生きがい」があげられた。
- 医療体制が充実したまちに向けては、医療難民、介護難民をなくすこと、また、自宅で終末期を過ごせるように 24 時間在宅医療などのターミナルケアの充実が重要で、そのためにも、高度医療機関と町医者が連携することや、専門医の充実、医師がチームを組み地域を回ることなどの仕組みづくりが必要との意見があった
- 健康については、健康寿命の延伸を目指して、ロコモティブシンドロームの予防対策や、そのためにもいつでも誰でも楽しくスポーツができる環境づくりを進めるべきとの意見が出された。
- 人権・福祉では、福祉のまち枚方の復活を目指し、差別なくみんなが一緒に暮らせるよう、小さい頃から障害者や高齢者と交流できる場づくりが大切との意見があった。また、高齢者の生きがいをサポートするため、生涯学習市民センターの有効活用や、高齢者の就労の場を提供する仕組みが必要との意見があった。
- 共通事項として、様々な医療や健康、福祉の情報について、知りたいことがすぐわかるような広報の充実、特に、市ホームページでは、よりわかりやすいポータルサイトの設置などが必要との意見が出された。

C 班

テーマ『健康で心豊かに暮らすために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
身近に整備された公園のあるまち *毎朝、まちのあちこちでラジオ体操が行われている	*公園そのものが減ってきている *公園において禁止事項が多い	○古武道を通じた「心」と「体」の育成 *指導者育成への支援
いつまでも元気でいられる病人ゼロのまち *先進医療都市の前に、病気になる前に、いつまでも元気でいられるように	*医療のハード面は充実しているが、未病対策はハード・ソフト面がまだまだ *すぐ病院に行くようなコンビニ受診が多いが、まずは自分の体を知ることが大事 *海外では在宅での治療か病院での治療かを選択できる（する）仕組みがある	○教育（家庭教育）の充実 → 病院の利用、薬、生きがいについて *医療にすべて依存しない *家庭教育が重要、親の教育が一番 *地域の中で相談できるように *家庭内や学校の保健体育の授業において教育するなど、未病に対する社会全体の雰囲気づくりが必要 ○医薬分業のシステムづくり *医療機関と薬の提供機関の役割分担が必要
趣味やボランティアをする人・したい人のサポート体制が整備されたまち *心に余裕のある人が多いまち	*いろいろな組織があるが、十分にサポートされていない（生涯学習など）	○活動するための場所の確保と情報発信 *活動している団体の情報の発信 *身近な活動があれば元気につながる
子育てがしやすく、親子が安心して暮らせるまち	*東京では子育て支援のネットワークがある	○気軽に相談できる体制づくり *かけこみ相談ができるネットワークづくり *孤独で身寄りのないひとり暮らしの場合でも安心
		○ワーク・ライフ・バランスの充実 *行政が企業を健康面でサポートすることが必要。企業誘致につながり、税収増にもつながるのではないかと
共通項目		○積極的に活かされる税金の使い方 → 医療と健康づくりのための予算のリンク *健康づくりへの投資が実感できるまち *よりよくしていくための未来への投資 *テーマに応じた目標設定をしっかりと→評価基準が大切 *税金の循環。例えば削減したお金を公園整備に回す等、分かりやすいお金の流れ ○行政サービスのコンビニ化 *必要な時に身近で行政サービスが受けられるように

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「身近に整備された公園のあるまち」「いつまでも元気でいられる病人ゼロのまち」「趣味やボランティアをする人・したい人のサポート体制が整備されたまち」「子育てがしやすく、親子が安心して暮らせるまち」があげられた。
- 身近な公園については、毎朝ラジオ体操が行われるような場を整備すべきで、古武道を通じた心と体の育成などが必要との意見が出された。
- 病人ゼロのまちに向けては、未病対策や生きがいにつながる観点から、病院や薬に依存しない暮らしを心がけるべきで、そのためにも家庭教育を充実することが必要との意見があった。
- ボランティアのサポート体制については、活動する場所の確保と活動をしている団体の情報発信が必要であり、また、子育て親子の安心な暮らしに向けては、気軽に相談できるネットワークづくりが大切との意見があった。
- ワーク・ライフ・バランスの充実も必要で、行政から企業に対し、ソフト面を含めて健康をサポートする対策を進めることで、企業誘致、税収増にもつながるとの意見があった。
- 共通事項として、適切に目標設定を行う中で、健康施策に効果的に投資することで、医療費削減による財源創出につながり、その財源を更に活用していくといった循環を図るべきとの意見が出された。

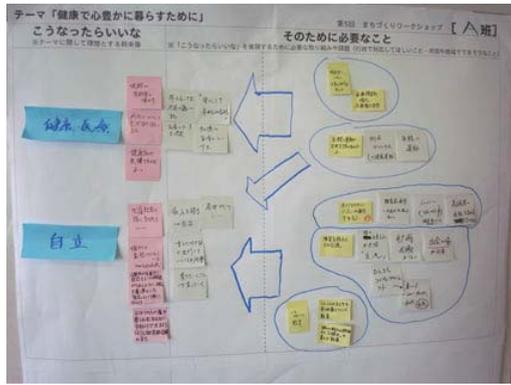
D 班

テーマ『健康で心豊かに暮らすために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
24 時間対応できる医療のまち *医療、病院の診療日、時間が偏りすぎているので、午後、夕方、夜なども医療提供してほしい	*医療機関の多くは土日が休みであるため、診療先が限られている	○各病院相互の協力体制づくり *人員配置、看護体制について、いろいろとハードルが高いと思うが医師会と各病院の相互協力が必要（診察時間の延長に向けて） *救急指定されている病院を地域にも設置し、病状によっては搬送も行う
医療コンシェルジュがあるまち *病気の人がほぼゼロのまち *どこの病院へ行ったらよいか相談できるような仕組みづくり		
幼児・児童が健全に成長できるまち		○家庭、学校、地域の交流・連携で見守り *東牧野では毎朝ラジオ体操を実施しており、他の地域へ広げていく *毎日、畑の散歩が楽しみ
健康づくりができる環境のあるまち	*河川敷にトイレがない	○淀川堤防の環境づくりへの参加 ○自転車利用しやすい距離標識の設置 *堤防の自転車道 ○焼却熱を利用した温水室内プールの設置
高齢者と若者が交流するまち *高齢者は若者と仲良くすること *高齢者と子どもと一緒に健康で生き生きと暮らせるまち		○多世代の人が楽しむことができるイベント等 *年齢制限のないコンサート等イベントの実施 ○3世代交流（高齢者・大学生・子ども） *大学生が中間支援 ○ボランティアの適材適所での活用 *受ける側のニーズと提供側との適切なマッチング *有償ボランティアの活用 ○大学生のボランティアとしての活用、高齢者が気軽に大学へ出向いていける開かれた大学 *高齢者が大学へ行って、手伝ってほしいことを募集
市民や外国人など人権意識の高いまち	*人権意識は各事業所、従業員によって非常に温度差があるため、一人一人、人権啓発意識を持つべき	○人権意識を高める研修や教育 *SNS 利用時における人権意識の向上（特に学校など） ○外国人への日本マナーの伝達
高齢者などの施設サービスが充実したまち		○福祉の場で従事者が働きやすい環境づくり *介護福祉士などが働きやすい環境整備 ○福祉の専門家が相互啓発 *福祉の専門家が相互に交流・啓発し、各施設の利用者サービスを検証できるように

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「24 時間対応できる医療のまち」「医療コンシェルジュがあるまち」「幼児・児童が健全に成長できるまち」「健康づくりができる環境のあるまち」「高齢者と若者が交流するまち」「市民や外国人など人権意識の高いまち」「高齢者などの施設サービスが充実したまち」があげられた。
- 医療に関しては、診療日時が偏っているため、病院の相互協力などにより 24 時間対応できる医療体制の整備や、どこの病院へ行ったらよいか相談できる医療コンシェルジュなどが必要との意見が出された。
- 健康に関しては、幼児・児童が健全に成長していくために、家庭、学校、地域の連携が大切であること、また、健康のための環境整備として、自転車利用など淀川堤防の環境づくりが有効との意見があった。また、高齢者と若者の交流は、健康でいきいきと暮らすために必要で、3 世代（高齢者・大学生などの若者・子ども）の交流を促進するため、高齢者や大学生が相互に交流を深めていくべきとの意見が出された。
- 人権では、人権意識を高める教育が大切で、SNS 利用時における人権意識の向上などが必要との意見があった。
- 高齢者などの施設サービスの充実に向けては、施設の従事者が働きやすい環境づくりや、福祉の専門家が相互に啓発することなどが必要との意見が出された。



※上段左からA班、B班、下段左からC班、D班のワークショップの発表内容

ふりかえりシートより

主な意見・感想を紹介します。

【意見・感想】

- 医療について知らないことが多く、とても参考になった。
- 「健康で心豊かに」というテーマの中で何を基準にするかという話になり、有意義な議論となった。
- 特定の地域・事象に偏らないように話を進めることは難しいと感じた。具体的な体験を踏まえつつ、他のことへ還元できるような建設的な話し合いをすることが今後の課題かと思う。
- 各班で議論していることが大変よく似ていることが分かった。興味や問題点が共通していることがおもしろい。
- 世代によって見る問題が異なることを改めて感じた。壮年層の参加が少ないのが残念である。
- 発表者として発言したのは良い経験になった。
- メンバー間で発言しやすいように促してもらったので、リラックスして取り組むことができた。
- 発言時間に偏りがあり、発言の少ない方が出てしまったように感じた。
- 「健康で心豊かに」というテーマで、改めて自分自身を問い直してみる機会になった。

- 世代間交流として、地域が大学に向かう方が良いのか、大学が地域に向かう方が良いのかという疑問が生まれたので議論を深めたい。
- 医療体制に関しては話し合えたが、テーマのうち福祉や自立などについては、十分に掘り下げて話し合えなかった。
- 健康で心豊かに暮らすためには、生涯安心して暮らせることが基本であり、自立を助け健康な時には生涯現役で働ける環境や仕事の提供が必要だと思う。
- 医療難民、介護難民がなくなるように、高齢者の立場を考えた地域連携の仕組みを広く市民にPRしてほしい。
- 最終的にどのような形式でまとめていくのか説明してほしい。

【編集・発行】枚方市 政策企画部企画課

TEL : 841-1221 FAX : 846-5341

Email : kikaku@city.hirakata.osaka.jp